

## 鳥取大学工学部長候補者届出書

工学部長候補者選挙管理委員会

立候補者氏名	河合 一 印	届出月日	平成16年12月28日
自薦・他薦の別	他薦	推薦人氏名	木村 晃、 細井 由彦、 喜多 秀行
学部長候補者選挙に立候補の所信			
工学部教員各位殿			
立候補者 河合 一			
工学部長候補者選挙に立候補するに当たり、所信を述べさせていただきます。			
<p>大学全入時代を目前に控え、大学に対する社会の要請がますます高まる中で、学生が勉学に対する緊張感を保ちつつ、学び生活して良かったと感じられる鳥取大学、教育・研究双方から社会に貢献できる鳥取大学にしていくことは私たちの責務です。質的にも量的にも鳥取大学をリードする工学部においてはなおさらです。そのためには、教職員一人一人が自分の能力と適性を生かして主体的に参画することにより、より良い教育・研究・運営システムを実現してゆくことが必要です。</p> <p>しかしながら、法人化によりせっかく柔軟な教育・研究・運営が可能な組織となったにも拘らず、忙しさだけが感じられそのメリットがなかなか感じられない状況となっているのではないのでしょうか。現状では、大学執行部の強い指導力の下で多くの事柄が通知され、学部ではそれらを時間的にも検討の余地のないまま受け入れることがしばしば見受けられるように思えます。受け入れるだけでなく、工学部からも鳥取大学を良くする方策を積極的に提案し、貢献していくことが必要だと考えます。</p> <p>工学部においては、教職員個々人が参画意識を持ち得る意思決定プロセスを整備し、工学部の教育・研究・組織等に関する現状の諸課題も含めて目指すべき将来像を明らかにして、大学執行部や社会に伝えていかなければなりません。より活力に満ちた教育研究組織のあり方、三割減カリキュラムといわれる新指導要領下の受験生に対応した選抜・教育方法、活力ある大学を創るための評価のしくみ、現場の実態に即した事務処理システムなど、検討すべき事項は多数あります。本人の適性に応じて、教育・研究・運営への適切な時間・労力配分も考慮し、それぞれの領域で努力し頑張った教職員は個人として報われる仕組みも必要と考えます。</p> <p>鳥取大学構成員である学生、教員、職員一人一人にとって、勉学の場、働く場として活力にあふれ、誇りと充実感の持てる大学・学部を目指したく思っています。</p>			
推 薦 書			
木村 晃、細井 由彦、喜多 秀行			
私たちは工学部長候補適任者として河合一教授を推薦いたします。			
鳥取大学における教授としての仕事ぶり、評議員、副学部長としての仕事ぶりを間近で見えてきて、激動の時代の鳥取大学および工学部のために働いていただくにふさわしい方で			

あると考えているからです。

大学を取り巻く環境変化に対し、速やかかつ適切な判断を下し対応することが求められています。河合教授が全学的に主として教育面や制度面における大学改革のとりまとめ役を通じて蓄積された経験と知識ならびに人的ネットワークは、今後本学や工学部が直面するであろう種々の課題に対し、適切に対応する上で大きな力になるものと期待できます。

また、学長、学部長等のリーダーの方針を、その内容を的確に判断しつつかみ砕いて教員等に説明し、意見を積極的に汲み上げた上でそれに対するリアクションを要領よく整理して事にあたっられました。意見の一致が見られない場合には繰り返し新たな代替案を検討するなど、建設的な議論の展開による合意形成の重要性を強く意識しておられます。単なるイエスマンではなく、自分の意見を持ちながらも柔軟に対応し、問題の所在を明らかにしつつ合意形成を進めるという対処の仕方は学部の核となる者として非常に重要な資質であります。

長年にわたって大学、学部内の各種委員を枚々としてつとめられ、法人化後の副学部長として最も難しい時期に、学部長を補佐して仕事に取り組んでこられました。依頼された仕事からは決して逃げず、労多くして報われることの少ない仕事にも全力で取り組まれる姿勢は工学部長の重責を果たされるにふさわしいものといえます。

河合教授がこれまでに蓄積してこられた以上のような実績をもって工学部の発展のために活躍していただきたいと考えます。